

福島社会イノベーション創造事業

連携市町村

早稲田大学

福島県広野町、福島県富岡町

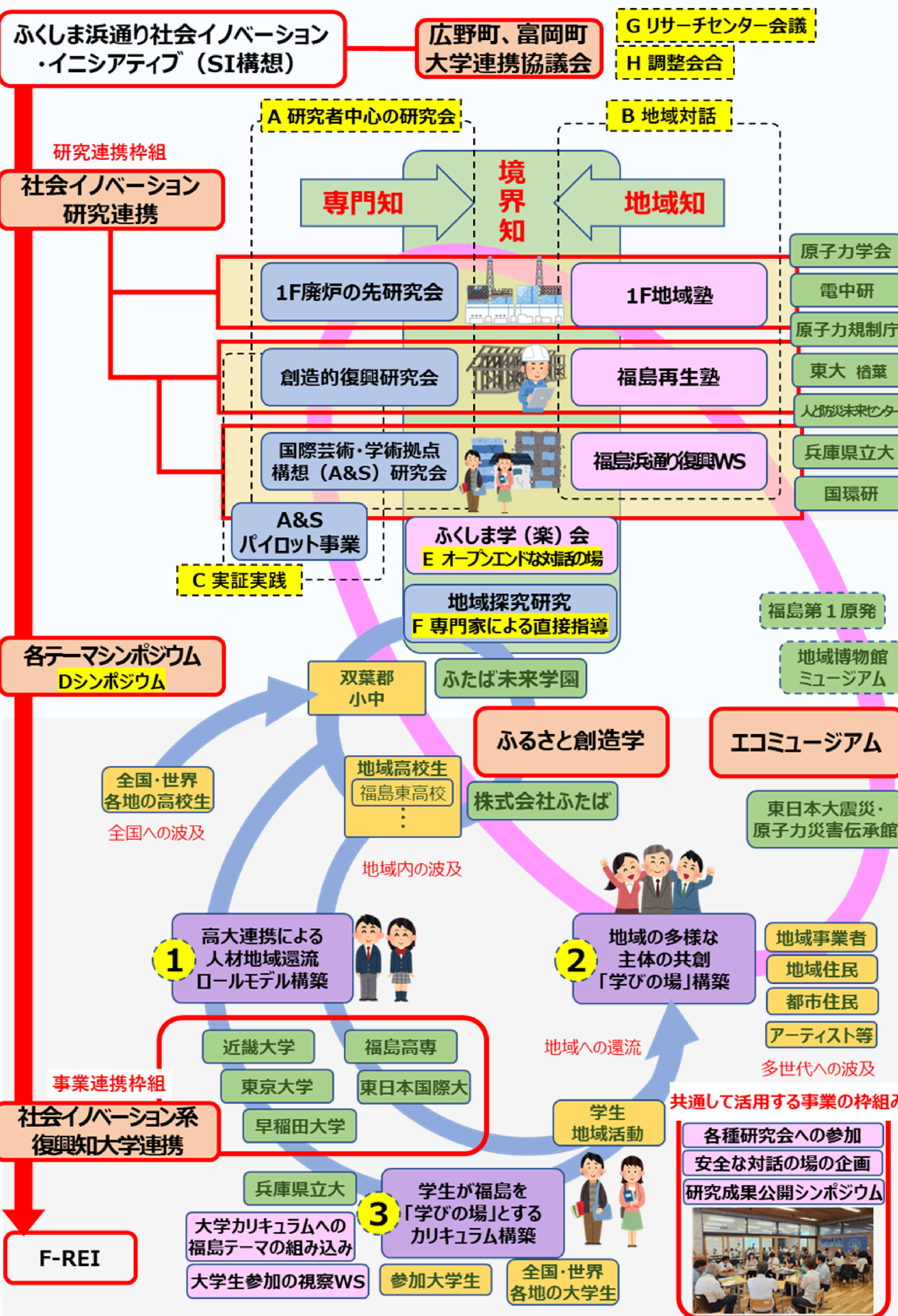
事業の目的

福島における復興と廃炉に関する調査研究を、地域の皆さんと多様な専門家とが協働して実施し、長期的・広域的な観点から復興と廃炉の将来像の選択肢を広く社会へ提案する。このことを通じて、2050年に持続可能な福島浜通り地域社会の形成を目標とした社会イノベーション（社会変革）を創造し、日本社会の再生を実現する。

市町村/各種団体との連携体制の構築

- ・ 広野町・富岡町とともに浜通りの長期的・広域的観点からの復興の横展開
- ・ 双葉地方町村会および被災15市町村など周辺自治体との連携
- ・ 研究会メンバーの所属機関やふたば未来学園、地域団体との連携

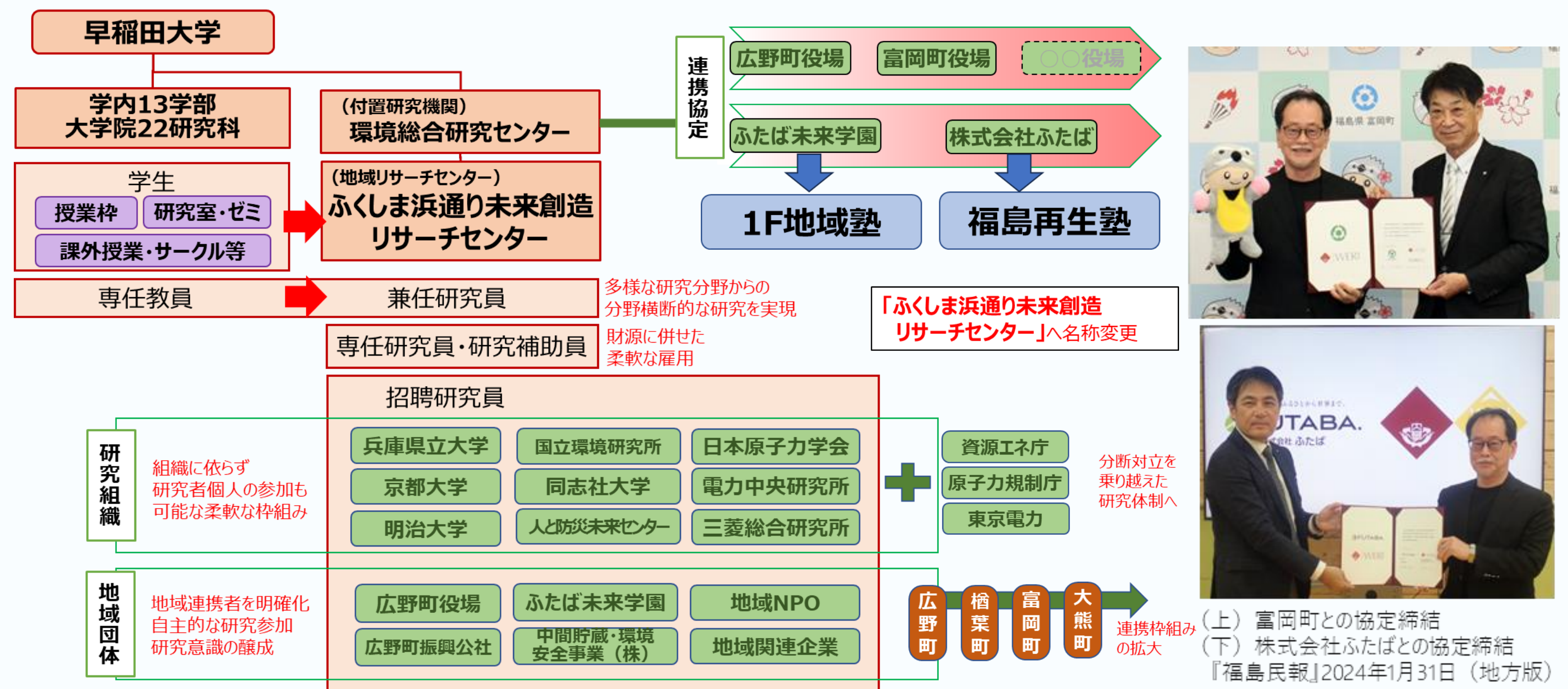
事業の概念図



めざすべき人材像と5年間の人材育成目標

- 福島の教訓を踏まえて、継続的に福島の課題を「自分ごと」ととらえ、科学技術と社会の関わりについてのイノベーションを起こす人材を育成する。
- トランスサイエンスを対象とした対話の実践、自分ごと化のプロセスを重視する。
- ①～③のカリキュラム連携により、一貫した“ふるさと創造”への思いを持続的な学びに活かすプラットフォームを構築する。

連携体制



教育研究プログラムの概要



「対話の場」+「学びの場」モデルの形成



事業終了時点の成果及びその後の見通し

- “ふるさと創造学”のプラットフォームを継続運営するため、地域における課題解決研究を維持し、そこへ高校生や様々な世代が参加する対話の場、学びの場（Learning Communityを維持・継続（「1F地域塾」「福島再生塾」）。
- 復興知事業終了後、上記の2つの塾について、連携関係を構築した「ふたば未来学園」「株式会社ふたば」の予算として確保することで持続的な運営をめざす。